

第2回コンパクトなまちづくり専門小委員会 議事概要

日 時	平成 27 年 11 月 9 日（月） 10 時 00 分～11 時 50 分		
場 所	北九州市役所 5 階 プレゼンルーム		
出席者		氏 名	役 職 名
	委 員	寺町 賢一	九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授
	委 員	◎柳井 雅人	北九州市立大学 経済学部 教授
	臨時委員	泉 優佳理	元北九州ミズ 21 委員会（第 8 期）委員
	臨時委員	木内 望	国土交通省 国土技術政策総合研究所 都市研究部 都市計画研究室長
	臨時委員	志賀 勉	九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門計画環境系 准教授
	臨時委員	谷口 守	筑波大学 システム情報系 社会工学域 教授
	事 務 局	建築都市局（都市計画課）	
議事内容	<p>1 開 会</p> <p>2 議事</p> <p>（1） 第 1 回専門小委員会以降の取り組み状況について</p> <p>（2） 都市構造上の課題とまちづくりの方向性について</p> <p>（3） 居住誘導区域、都市機能誘導区域設定の考え方について</p> <p>（4） 立地適正化計画構成（案）</p> <p>3 閉会</p>		

◎：委員長

第2回コンパクトなまちづくり専門小委員会の主な意見

1. 市民意識調査結果について

- 一般市民の方がコンパクトなまちづくりにこれだけポジティブに回答されているのは全国的にも参考になる非常に貴重な情報である。
- お店などの利便施設の比較的近くには住みたいが、至近には住たくないと思っ
ている方が多いようである。これは、居住を誘導していく際の重要な着眼点である。
- アンケートについて、年齢構成と関係あるかもしれないので、クロスチェックを
かけて見る必要がある。
- 8割から9割の人がコンパクトシティを支持しているのはすばらしいが、逆に支持
してない人がどのようなところに住みたいのか、何を求めているのか知る必要があ
る。

2. 都市構造上の課題とまちづくりの方向性について

- 公共交通の充実に関しては、乗り換え案内や運行情報等をインターネットを用いて
提供するなど便利に利用できるようにすることも重要。
- “階層拠点+交通網ストックを生かしたコンパクトな都市構造”というキャッチフ
レーズは、もっとわかりやすいものにしたほうが良い。
- 拠点の強化だけではなく、拠点間を強化・充実させることで、さらに拠点を強化し
ていく手法があっても良いのではないか。
- PDC Aの観点から考えると、定量的な目標や課題の提示があるとよい。
- 生活利便性を確保していくためには、都心・副都心や地域拠点だけではなく、生活
拠点もその周囲の居住誘導区域の核にしていくための検討が必要。これは、立地適
正化計画の検討とは別に行うことかもしれないが、特定の場所を事例的に取り上げ
て示してもよいのでは。
- 集約型都市づくりのイメージ図は、低層住宅地での高層マンションの立地や、郊外
部における中層の集合住宅の誘導、拠点とその周辺等について、市がどのような集
約を行っていくのかを伝える重要なものになるため、これまでの議論を踏まえて精

査が必要。

3. 拠点（都市機能誘導区域）の設定について

- 北九州市のコンパクトなまちづくりが目指すのは、例えば、老後に一人暮らしになったとき、困ることなく生きていけるようにすることではないか。
- 生活拠点は歳をとっても自立して生きていける拠点、地域拠点は生活拠点にプラスして何らかの社会的な活動が出来る拠点、都心・副都心というのは、さらにその上位で都市としての機能を果たしていくための拠点といえるのではないか。
- 生活拠点や地域拠点の定義・概念は、市民にとってわかりやすい表現に詰めていく必要がある。
- 現状分析から抽出された拠点と地理的・空間的な必要性から抽出した拠点が混在しているため、両者を分けて整理したほうが良いのではないか。
- 拠点の設定の際には、産業や工業も含めて分析した方が良いのではないか。

4. 居住誘導区域の設定について

- 居住誘導区域の検討において、用途地域の工業専用地域は除かれているが工業地域は除かれていない。フロー主義の考え方であれば、新しいものをどんどん建てていかなければ居住密度は高まらないことから、適切ではないのではないか。
- 居住誘導区域について、現状の人口密度の程度から、公共交通機関からかなり離れているところも設定している。そういうところを第二居住誘導区域など、拠点と同様に居住誘導区域もグループをいくつかに分けても良いのではないか。
- 都市機能誘導区域については詳しい階層構造の設定・分析がされているが、居住誘導区域についてはいきなり設定ステップの話になっている。まずは、市が居住誘導区域をどのようにとらえているのかの整理が必要。これは、居住誘導区域から外れたエリアの住民への説明の際にも必要になってくる。
- 居住誘導区域の設定については、現状も踏まえて慎重に精査をお願いしたい。
- 居住誘導が実現した場合の試算は、あまりに上手くいきすぎているのでは。設定する居住誘導区域にもよるが、街なかへ居住を誘導しても郊外の緑豊かなところに住みたい方も一定数存在することから考えると、本当にここまで上手くいくのか疑問。

5. 立地適正化計画の構成案について

- 目標値については、いくつかのケースを提示しても良いのでは。その中で確率の高そうなところを目標値にして査定していくとよい。